

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
保健医療学部リハビリテーション学科理学療法専攻	8人	1人	7人	3人	19人	9人	16人	1人	114人	14.8人	
保健医療学部リハビリテーション学科作業療法専攻	3人	3人	0人	3人	9人	6人	8人	0人			
計	11人	4人	7人	6人	28人	15人	24人	1人	114人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎	科学的思考の基盤	情報処理学	15	木村 幸世	兼任
		医療情報学	15	周藤 俊治	兼任
		統計学	15	周藤 俊治	兼任
		物理学	15	石井田 啓太・富永 岳	兼任
		生物学	15	林 研	兼任
		医療英語	15	近藤 未奈	兼任
	人間と生活	文学	15	小林 信	兼任
		教育学	15	川村 光	兼任
		法学概論	15	松崎 秀明	兼任
		国際社会と日本	15	白井 博雄	兼任

基礎	人間と生活	自然科学概論	15	林 研	兼任
		福祉住環境論	15	曾我部 千鶴美	兼任
		生命倫理	8	豊泉 俊大	兼任
	社会の理解	コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅰ	8	春海 淳子	兼任
		コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅱ	8	春海 淳子	兼任
		コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅲ	8	大西環・井口知也	専任
		医療コミュニケーション学（面接技法）	8	島雅人	専任
		国語表現学（レポート作成法）	15	岡崎 昌宏	兼任
		心理学（人間関係学、教育心理学を含む）	15	鈴木 暁子	兼任
		言語学	15	松井 理直	専任
英語コミュニケーション（英会話初級）	15	近藤 未奈	兼任		
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎ゼミナール	30	専任教員・他	専任・兼任
		チーム医療論（多職種連携の理解を含む）	未開講	2023年度より4年次開講	
		障がい者スポーツ入門（自由選択）	15	島雅人・相原一貴	専任
		障がい者スポーツ指導論（自由選択）	15	島雅人・相原一貴	専任
		スポーツ医学（自由選択）	8	佐藤 睦美・境 隆弘・他	兼任・専任
		リハビリテーション概論（地域包括ケアシステムの理解を含む）	15	井上 悟	専任
		リハビリテーション医学	15	非常勤講師	兼任
		介護概論	8	綾部 貴子	兼任
		感染症学（感染症の基礎及び予防策を含む）	8	藤岡 重和	専任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	障害者福祉論（自立支援、就労支援を含む）	8	増田 和高	兼任
		老人福祉論	8	綾部 貴子	兼任

専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	基礎解剖学	15	柴田 雅朗	兼任
		解剖学基礎演習	15	相原一貴・岡智大・文本聖現	専任
		運動器系の解剖学	15	田中 稔	専任
		神経系の解剖学	15	大井 康浩	兼任
		内臓系の解剖学	15	非常勤講師	兼任
		機能解剖学（体表解剖学・触知）	15	津村 宜秀	専任
		生理学Ⅰ	15	木村 晃大	専任
		生理学Ⅱ	15	木村 晃大	専任
		生理学Ⅲ	15	中村 彩	専任
		生理学Ⅳ	15	中村 彩	専任
		生理学実習	23	木村 晃大	専任
		運動学総論	30	境 隆弘	専任
		運動学各論	30	境 隆弘	専任
		運動学基礎演習	15	津村 宜秀	専任
		生涯人間発達学	15	藪中 良彦	専任
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	15	春海 淳子
	病理学概論		8	山本 与毅	兼任
	一般臨床医学（救急救命を含む）		15	藤岡重和・岡本文雄・福原雅之・大場創介・神納光一郎・矢吹裕栄・竹原友貴・藤本宣正	専任・兼任
	医療安全学		8	藤岡 重和	専任
	疫学・公衆衛生学（予防の基礎を含む）		8	白井 文恵	兼任
	内科学Ⅰ		15	藤岡 重和	専任
	内科学Ⅱ		15	藤岡 重和	専任
	整形外科Ⅰ		15	佐藤 睦美・境 隆弘・岡智大・高木 啓至・白井 俊方 中村 憲正	専任・兼任
	整形外科Ⅱ		15	境隆弘・岡智大	専任
	臨床神経学Ⅰ		15	岩田 篤	専任
	臨床神経学Ⅱ		15	岩田 篤	専任

専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	精神医学	15	高井田 輪香子	兼任
		臨床運動学	15	島 雅人・文本聖現	専任
		臨床薬理学	8	藤岡 重和・池田 宗一郎・石田 志門・下村 裕章・名徳 倫明	専任・兼任
		臨床検査医学（画像診断・評価を含む）	8	藤岡重和・津田泰宏・和田晋一・久田洋一・掛川雅朗	専任・兼任
		小児科学	8	早島 禎幸・藪中 良彦	専任・兼任
		老年医学	8	藤岡 重和・大中 玄彦	専任・兼任
		高次脳機能障害学Ⅰ	8	林部美紀・掛川泰朗・呉 胤美・石田敦子	兼任・兼任
		高次脳機能障害学Ⅱ（自由選択）	8	林部美紀・寺村晃	専任
		栄養学	8	仲村 祐江	兼任
専門	基礎理学療法学	スタディースキルⅠ	15	境 隆弘・相原一貴・文本聖現	専任
		スタディースキルⅡ	15	藪中 良彦・田中 稔・中村 彩	専任
		理学療法学概論（制度・教育・倫理）	15	藪中 良彦・岩田 篤・岡 智大	専任
		臨床ゼミナールⅠ	15	PT 専任教員	専任
		臨床ゼミナールⅡ	15	PT 専任教員	専任
		総合理学療法学Ⅰ	15	3年生チューター	専任
		総合理学療法学Ⅱ（旧カリ）	15	PT 専任教員・他	専任・兼任
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	15	中村 彩	専任
		理学療法評価学Ⅱ	15	牧之瀬 一博・相原 一貴・津村 宜秀	専任
		理学療法評価学Ⅲ（画像評価を含む）	15	藪中良彦・田坂厚志・津村宜秀	専任
		理学療法評価学実習	23	牧之瀬 一博	専任
		理学療法評価学演習Ⅰ	15	3年生チューター	専任
		理学療法評価学演習Ⅱ（思考プロセス）	15	牧之瀬一博・田坂厚志・相原一貴	専任
	理学療法治療学	運動療法学Ⅰ	15	椰 千磨	専任
		運動療法学Ⅱ	15	田坂厚志・岡智大	専任
		小児期理学療法治療学	15	藪中 良彦	専任
呼吸器障害理学療法治療学（喀痰等の吸引を含む）		8	野村 卓生	兼任	

専門	理学療法治療学	代謝障害理学療法治療学	8	野村 卓生	兼任
		循環器障害理学療法治療学	8	田坂 厚志	専任
		神経障害理学療法治療学Ⅰ	15	岩田 篤 植田 翔介	専任・兼任
		神経障害理学療法治療学Ⅱ	15	岩田 篤	専任
		老年期理学療法治療学	8	田坂厚志・木上秀幸・奥野泰介・新家寿貴・池田耕二	専任・兼任
		運動器障害理学療法治療学Ⅰ	15	佐藤 睦美・高木 啓至	兼任
		運動器障害理学療法治療学Ⅱ	15	佐藤睦美・境 隆弘	兼任・専任
		運動器障害理学療法治療学Ⅲ	8	井上悟・加藤 直樹	専任・兼任
		物理療法学	15	田中稔	専任
		物理療法学演習	15	田中稔	専任
		義肢装具学	15	井上 悟	専任
		義肢装具学演習	15	井上 悟・境 隆弘・高木 啓至・西野 誠一	専任・兼任
		地域理学療法学	日常生活活動学	8	相原 一貴
	日常生活活動学演習		15	相原 一貴・植田翔介	専任・兼任
	地域理学療法学		8	島 雅人・中村彩・田中仁	専任・兼任
	生活環境論		8	相原 一貴	専任
	国際リハビリテーション (自由選択)		未開講	井口 知也・寺村晃・PT 専任教員	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学Ⅰ (職業教育)	8	島雅人・他	専任
		理学療法管理学Ⅱ (職場管理、教育・職業倫理)	未開講	2023 年度より 4 年次開講	
	理学療法研究	理学療法研究法	8	中村 彩	専任
	卒業研究	理学療法研究特別演習 (卒業研究) 3-4 年 通年科目 (旧カリ)	90 時間	牧之瀬一博・岩田篤・津村宜秀・中村彩	専任
		理学療法分野特別演習 3-4 年 通年科目 (旧カリ)	90 時間	牧之瀬一博・岩田篤・津村宜秀・中村彩	専任
		理学療法特別演習基礎 (旧カリ)	15	PT 専任教員	専任

専門	理学療法研究	理学療法演習Ⅰ（演習・調査・研究）	15	PT 専任教員	専任
		理学療法演習Ⅱ（演習・調査・研究）	未開講	2023 年度より 4 年次開講	
		理学療法特別演習（卒業試験）	15	PT 専任教員	専任
	臨床実習	臨床見学	40 時間	椰千磨・1 年生チューター	専任
		見学実習Ⅰ	45 時間	椰千磨・2 年生チューター	専任
		見学実習Ⅱ	45 時間	椰千磨・3 年生チューター	専任
		評価実習	180 時間	3 年生チューター	専任
		総合臨床実習Ⅱ（旧カリ）	810 時間	藪中 良彦・PT 専任教員	専任
		総合臨床実習	未開講	2023 年度より 4 年次開講	

保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当コ マ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎	科学的思考の基盤	情報処理学	15	木村 幸世	兼任
		医療情報学	15	芦田 信之	兼任
		統計学	15	周藤 俊治	兼任
		物理学	15	石井田 啓太・富永 岳	兼任
		生物学	15	林 研	兼任
		医療英語	15	近藤 未奈	兼任
	人間と生活	文学	15	小林 信	兼任
		教育学	15	川村 光	兼任
		法学概論	15	松崎 秀明	兼任
		国際社会と日本	15	白井 博雄	兼任
基礎	自然科学概論	15	林 研	兼任	
	福祉住環境論	15	曾我部 千鶴美	兼任	
	生命倫理	8	豊泉 俊大	兼任	

基礎	社会の理解	コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅰ	8	春海 淳子	兼任
		コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅱ	8	春海 淳子	兼任
		コミュニケーション・リハビリテーション学Ⅲ	8	大西環・井口知也	専任
		国語表現学（レポート作成法）	15	岡崎 昌宏	兼任
		心理学（人間関係学、教育心理学を含む）	15	鈴木 暁子	兼任
		言語学	15	松井 理直	専任
		英語コミュニケーション（英会話初級）	15	近藤 未奈	兼任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	基礎ゼミナール	30	専任教員・他	専任・兼任
		チーム医療論（多職種連携の理解を含む）	未開講	2023 年度より 4 年次開講	
		障がい者スポーツ入門（自由選択）	15	島雅人・相原一貴	専任
		障がい者スポーツ指導論（自由選択）	15	島雅人・相原一貴	専任
		スポーツ医学（自由選択）	8	佐藤 睦美・境 隆弘・他	兼任・専任
		リハビリテーション概論（地域包括ケアシステムの理解を含む）	15	井上 悟	専任
		リハビリテーション医学	15	非常勤講師	兼任
		介護概論	8	綾部 貴子	兼任
		感染症学（感染症の基礎及び予防策を含む）	8	藤岡 重和	専任
		障害者福祉論（自立支援、就労支援を含む）	8	増田 和高	兼任
		老人福祉論	8	綾部 貴子	兼任

専門基礎	人体の構造と機能及び心身の発達	基礎解剖学	15	永瀬 佳孝	兼任
		解剖学基礎演習	15	寺村 晃・渡部雄太	専任
		運動器系の解剖学	15	寺村 晃・渡部雄太	専任
	人体の構造と機能及び心身の発達	神経系の解剖学	15	柴田 雅朗	兼任
		内臓系の解剖学	15	非常勤講師	兼任
		生理学Ⅰ	15	木村 晃大	専任
		生理学Ⅱ	15	木村 晃大	専任
		生理学Ⅲ	15	非常勤講師	兼任
		生理学Ⅳ	15	中村 彩	専任
		生理学実習	23	木村 晃大	専任
		運動学総論	30	長谷川 昌士	兼任
		運動学各論	30	長谷川 昌士	兼任
		運動学基礎演習	23	林部美紀・寺村 晃	専任
		生涯人間発達学	15	寺村 晃・吉田 文・井口 知也	専任
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	15	春海 淳子
	病理学概論		8	山本 与毅	兼任
	一般臨床医学 (救急救命を含む)		15	藤岡重和・岡本文雄・福原雅之・大場創介・神納光一郎・矢吹裕栄・竹原友貴・藤本直正	専任・兼任
	医療安全学		8	藤岡 重和	専任
	疫学・公衆衛生学 (予防の基礎を含む)		8	白井 文恵	兼任
	内科学Ⅰ		15	藤岡 重和	専任
	内科学Ⅱ		15	藤岡 重和	専任
	整形外科Ⅰ		15	西田 裕希・寺村 晃・渡部雄大・中村憲正・臼井俊方	兼任・専任
	整形外科Ⅱ		15	寺村 晃・上里 圭吾・渡部雄大	専任・兼任
	臨床神経学Ⅰ		15	林部美紀	専任
	臨床神経学Ⅱ		15	林部美紀・岡山友哉	専任
	精神医学		15	高井田輪香子	兼任
	臨床運動学 (自由選択)	15	井口知也・渡部 雄太・山岡 信	専任・兼任	

専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床薬理学	8	藤岡 重和・池田 宗一郎・石田 志門・下村 裕章・名徳倫明	専任・兼任
		臨床検査医学 (画像診断・評価を含む)	8	藤岡重和・津田泰宏・和田晋一・掛川泰朗・久田洋一	専任・兼任
		小児科学	8	早島 禎幸・藪中 良彦	兼任・専任
		老年医学	8	藤岡 重和・大中 玄彦	専任・兼任
		高次脳機能障害学Ⅰ	8	林部美紀	専任
		高次脳機能障害学Ⅱ	8	岡山 友哉	専任
		栄養学	8	仲村 祐江	兼任
専門	基礎作業療法学	作業療法概論	8	辻 郁	兼任
		基礎作業学Ⅰ	15	林部美紀・金城聡・足立一	専任・兼任
		基礎作業学Ⅱ	30	吉田 文・平河 麻未・楠本涼介・上原央	専任・兼任
		作業療法研究法	15	井口 知也・渡部 雄太	専任
		作業療法総合演習Ⅰ	15	OT 専任教員	専任
		作業療法総合演習Ⅱ	15	OT 専任教員	専任
		作業療法総合演習Ⅲ	15	OT 専任教員	専任
	作業療法管理学	作業療法管理学	15	辻 郁・芳賀 大輔・西田 裕希	兼任
	作業療法評価学	作業療法評価学概論	8	寺村 晃・辻 郁・渡部雄大	専任・兼任
		作業療法評価学Ⅰ	15	岡山 友哉・林部 美紀・橋元和泉・日高 菜実・澤田 浩基	専任・兼任
		作業療法評価学Ⅱ (画像評価を含む)	15	吉田 文・寺村晃	専任
	作業療法治療学	身体障害治療学Ⅰ	15	岡山 友哉・田中陽一	専任・兼任
		身体障害治療学Ⅱ	15	林部美紀・福岡千枝・熊野宏治	専任・兼任
		身体障害治療学Ⅲ (吸引を含む)	15	林部美紀・松永伸志・岡山友哉	専任・兼任
		精神障害治療学Ⅰ	15	吉田文・松田 匡弘・堀内 勇志・櫛田 理彩	専任・兼任
		精神障害治療学Ⅱ	15	吉田文・南庄 一郎・櫛田 理彩・芳賀大輔	専任・兼任

専門	作業療法治療学	発達障害治療学 I	15	寺村 晃	専任
		発達障害治療学 II	15	寺村 晃	専任
		老年期障害治療学 I	15	井口知也・森本かえで・渡部雄太	専任
		老年期障害治療学 II	15	井口知也・熊野宏治・森本かえで・渡部雄太	専任・兼任
		作業療法治療学演習 I	23	岡山友哉・OT 専任教員	専任
専門	作業療法治療学	作業療法治療学演習 II	23	岡山友哉・OT 専任教員	専任
		作業療法技術論 I	15	足立 一・中尾 拓・井口知也	兼任・専任
		作業療法技術論 II	15	吉田 文・木村 佳友・水上言・黒川 晶平	専任・兼任
		作業療法技術論 III	15	吉田文・石橋奈美・有賀喜代子・橋本弘子	専任・兼任
		作業療法技術論 IV	15	井口知也・林部美紀・松田靖史	専任・兼任
		臨床ゼミナール I	15	OT 専任教員	専任
		臨床ゼミナール II	15	林部 美紀	専任
		臨床ゼミナール III	15	寺村 晃	専任
		臨床ゼミナール IV	15	寺村 晃	専任
		総合作業療法学 (旧カリ)	15	吉田文・岡山友哉	専任
	地域作業療法学	地域作業療法学 I	15	辻郁・小野稿樹・多崎沙綾香・葉山靖明・田中歩	兼任
		地域作業療法学 II	15	辻 郁・酒井京子・堀内勇志・寺山衣代・木戸俊介・山河正裕	兼任
		日常生活活動学	15	寺村晃	専任
		国際リハビリテーション (自由選択)	未開講	井口知也・寺村晃・PT 専任教員	専任
	作業療法研究	作業療法研究	60	OT 専任教員	専任
	臨床実習	臨床見学実習	45 時間	OT 専任教員	専任

臨床実習	臨床評価学実習 I	45 時間	OT 専任教員	専任
	臨床評価学実習 II	135 時間	OT 専任教員	専任
	地域作業療法実習	90 時間	OT 専任教員	専任
	総合臨床実習 I (旧カリ)	360 時間	OT 専任教員	専任
	総合臨床実習 II (旧カリ)	360 時間	OT 専任教員	専任
	総合臨床実習 III	未開講	2023 年度より 4 年次開講	

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
理学療法士の仕事の見学 (臨床見学)	1 年前期	リハビリテーション概論	1 年前期
		理学療法概論	1 年前期
		理学療法管理学 I	1 年前期
		スタディスキル	1 年通年
		臨床ゼミナール I	1 年通年
情報収集、動作観察、検査・測定等の見学 (見学実習 I)	2 年後期	スタディスキル I	1 年通年
		スタディスキル II	2 年通年
		臨床ゼミナール I	1 年通年
		臨床ゼミナール II	2 年通年
		理学療法評価学 I	1 年後期
		理学療法評価学 II	2 年前期
		理学療法評価学実習	2 年後期
情報収集、動作観察、検査・測定等の見学 (見学実習 II)	3 年前期	運動療法学 I	2 年後期
		スタディスキル I	1 年通年
		スタディスキル II	2 年通年
		臨床ゼミナール I	1 年通年
		臨床ゼミナール II	2 年通年
		理学療法評価学 I	1 年後期
		理学療法評価学 II	2 年前期
		理学療法評価学実習	2 年後期
		日常生活活動学	3 年前期
		生活環境論	3 年前期
		運動療法学 I	2 年後期
運動療法学 II	3 年前期		

情報収集、動作観察、検査・測定等の実践 (評価実習)	3年後期	理学療法評価学Ⅰ	1年後期
		理学療法評価学Ⅱ	2年前期
		理学療法評価学Ⅲ	3年通期
		理学療法評価学実習	2年後期
		理学療法評価学演習Ⅰ	3年通年
		理学療法評価学演習Ⅱ	3年後期
		日常生活活動学	3年前期
		日常生活活動学演習	3年後期
		生活環境論	3年前期
		運動療法学Ⅰ	2年後期
		運動療法学Ⅱ	3年前期
		総合理学療法学Ⅰ	3年後期
		治療目標及び計画の立案、実施の実践 (総合臨床実習)	4年通年
理学療法評価学演習Ⅱ	3年後期		
運動療法学Ⅱ	3年前期		
運動器障害理学療法治療学Ⅰ	3年前期		
運動器障害理学療法治療学Ⅱ	3年後期		
運動器障害理学療法治療学Ⅲ	3年後期		
神経障害理学療法治療学Ⅰ	3年前期		
神経障害理学療法治療学Ⅱ	3年後期		
老年期理学療法治療学	3年前期		
呼吸器障害理学療法治療学	3年前期		
代謝障害理学療法治療学	3年後期		
小児期理学療法治療学	3年後期		
代謝障害理学療法治療学	3年後期		
循環器障害理学療法治療学	3年後期		
物理療法学	3年前期		
物理療法学演習	3年後期		
義肢装具学	3年前期		
義肢装具学演習	3年後期		
日常生活活動学	3年前期		
日常生活活動学演習	3年後期		
総合理学療法学Ⅰ	3年通年		

保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
作業療法の様々な取り組みを見学，経験 (臨床見学実習)	1年後期	リハビリテーション概論	1年前期
		作業療法概論	1年前期
		基礎作業学Ⅰ	1年前期
		作業療法管理学	1年後期
		臨床ゼミナールⅠ	1年後期
情報収集、動作観察、検査・測定等の 見学，経験 (臨床評価学実習Ⅰ)	2年前期	作業療法評価学概論	1年前期
		作業療法評価学Ⅰ	2年前期
		作業療法技術論Ⅰ	2年前期
通所・訪問リハビリテーションでの 作業療法場面の見学，経験 (地域作業療法実習)	3年前期	基礎作業学Ⅱ	2年後期
		臨床ゼミナールⅡ	2年後期
		作業療法評価学Ⅱ	2年後期
		作業療法技術論Ⅱ	2年後期
		地域作業療法学Ⅰ	3年前期
		地域作業療法学Ⅱ	3年前期
		身体障害治療学Ⅰ	3年前期
		身体障害治療学Ⅱ	3年前期
		精神障害治療学Ⅰ	3年前期
		発達障害治療学Ⅰ	3年前期
		老年期障害治療学Ⅰ	3年前期
		作業療法治療学演習Ⅰ	3年前期
		臨床ゼミナールⅢ	3年前期
		作業療法技術論Ⅲ	3年前期
情報収集、動作観察、検査・測定等の実践 (臨床評価学実習Ⅱ)	3年後期	作業療法評価学Ⅱ	2年後期
		身体障害治療学Ⅰ	3年前期
		身体障害治療学Ⅱ	3年前期
		身体障害治療学Ⅲ	3年後期
		精神障害治療学Ⅰ	3年前期
		精神障害治療学Ⅱ	3年後期
		発達障害治療学Ⅰ	3年前期
		発達障害治療学Ⅱ	3年後期
		老年期障害治療学Ⅰ	3年前期
		老年期障害治療学Ⅱ	3年後期

		作業療法治療学演習Ⅰ	3年前期
		作業療法治療学演習Ⅱ	3年後期
		日常生活活動学	3年後期
		臨床ゼミナールⅣ	3年後期
		作業療法技術論Ⅳ	3年後期
治療目標及び計画の立案、実施の実践 (総合臨床実習Ⅰ, 総合臨床実習Ⅱ)	4年前期	身体障害治療学Ⅰ	3年前期
		身体障害治療学Ⅱ	3年前期
		身体障害治療学Ⅲ	3年後期
		精神障害治療学Ⅰ	3年前期
		精神障害治療学Ⅱ	3年後期
		発達障害治療学Ⅰ	3年前期
	4年後期	発達障害治療学Ⅱ	3年後期
		老年期障害治療学Ⅰ	3年前期
		老年期障害治療学Ⅱ	3年後期
		作業療法治療学演習Ⅰ	3年前期
		作業療法治療学演習Ⅱ	3年後期
		日常生活活動学	3年後期
		臨床ゼミナールⅣ	3年後期
		作業療法技術論Ⅳ	3年後期

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	①自己点検評価委員会 ②大学運営会議
委員名（委員長）	<p>①自己点検評価委員会</p> <p>事務部長：中野尚美（委員長）</p> <p>学科長：島雅人</p> <p>研究科長：松井理直</p> <p>専攻主任：井口知也（作業療法学専攻）、田坂厚志（理学療法学専攻）</p> <p>専攻科主任：大西環（言語聴覚専攻科）</p> <p>法人室課長：溝畑允康</p> <p>事務部課長：上村美智子、嶋崎佑一</p> <p>②大学運営会議</p> <p>学科長：島雅人（委員長）</p> <p>研究科長：松井理直</p> <p>専攻主任：井口知也（作業療法学専攻）、田坂厚志（理学療法学専攻）</p> <p>専攻科主任：大西環（言語聴覚専攻科）</p> <p>事務部長：中野尚美</p> <p>法人室課長：溝畑允康</p> <p>事務部課長：上村美智子、嶋崎佑一</p>
組織の開催頻度	①②一か月に一度
組織の取り組み内容	<p>① (1) 自己点検及び評価並びに外部点検及び評価の実施基準等に関する事項</p> <p>(2) 教育活動、研究活動、社会貢献・組織運営の項目の設定に関する事項</p> <p>(3) 自己点検等の実施に関する事項</p> <p>(4) 自己点検等に関する報告書の作成に関する事項</p> <p>(5) その他自己点検等に関する事項</p>

	<p>② (1) 教員の人事案に関する事項 (2) 中期計画・年度計画に関する事項 (3) 内部質保証に関する事項 (4) 教学に関する事項 (5) 入学試験に関する事項 (6) 国際交流に関する事項 (7) 学生の健康管理に関する事項 (8) 各専攻・専攻科の運営に関する事項 (9) 各委員会における全学的課題に関する事項 (10) 規則等の制定又は改廃に関する事項 (11) その他学部等の運営に関する重要事項 (12) 私立大学等改革総合支援事業に関する事項</p>
自己点検・評価結果の公表	HPで公表 (URL : https://ohsu.ac.jp/about/disclosure/self-inspection)

【自己評価 4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教学委員会
	委員構成等	(1) 本学専任教員のうち学長が委嘱した委員 学科長、臨学センター長、専攻（科）主任、専攻（科）教員 (2) 事務職員のうち学長が委嘱した委員 事務部長、事務職員
	改善の仕組みの実際	教学委員会で次年度のシラバスを検討し、承認を得た後、11月末頃に科目担当者へシラバス作成の依頼を行う。 12月～1月中旬までの間に、科目担当者は、作成手引きを基にシラバスを作成していく。 1月中旬に提出されたシラバスを教学委員会で第三者チェックを行っている。 「授業内容」「授業計画」「評価方法」等の内容の確認を行い、併せて国家試験の出題基準と照らして問題等がないか確認を行っている。この時、修正箇所等があれば担当者に差し戻し、修正箇所がなれば完成となる。

【自己評価 4-3】 自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

<p>自己点検評価については、例年、以下の手続きにて、実施している。</p> <p>毎年5月末には、自己点検・評価委員長から指示を受けた各専攻、専攻科、研究科、各委員会が日本高等教育評価機構の評価基準に則り、各基準の「自己点検・評価報告書」について6月末を目途にまとめ、この報告書は自己点検・評価委員会を経て運営会議に提出される。運営会議は「自己点検・評価報告書」を検証（Check）し、改善・向上すべき方策を取りまとめて、各専攻、専攻科、研究科、各委員会に改善を指示（Act）する。各専攻、専攻科、研究科、各専門委員会等は、この改善方策の当該年度時点での実施状況について11月を目途にまとめ自己点検・評価委員会を通じ運営会議に報告し、その結果や新たな課題や継続課題については、次年度の「OHSU 中期展望および期間中の取り組み」の計画や「事業計画書」（Plan）に反映される。各専攻、専攻科、研究科、各委員会では「OHSU 中期展望および期間中の取り組み」の当年度計画および当年度「事業計画書」に基づき各年度中の目標を達成すべく取り組みを実行（Do）しているが、その結果は「OHSU 中期展望および期間中の取り組み」における当該年度報告や「事業報告書」、次年度6月に作成する当該年度「自己点検・評価報告書」に反映される。</p>

また、ディプロマ・ポリシー達成のための直接的課題やディプロマ・ポリシーを達成させるためのカリキュラム・ポリシーおよびアドミッション・ポリシーに関する課題と期間中の取り組み項目との対応を明確に示し、教育の質を保証するためアセスメントプランを策定している。これは、ディプロマ・ポリシーをもとに学修成果の到達度をはかる指標であり、この結果を自己点検評価して検証し、教育活動の改善に活用する。この結果や検証も含めた教育研究活動と運営全体について、全学的な自己点検・評価報告書を作成、検証、改善し、本学における継続的な質の保証を担保している。加えて、卒業生に学生生活、教育内容等に関するアンケート調査を行なっている。さらに、直近の卒業生の就職先の上長に対しても教育内容等に関するアンケート調査を行っており、結果について分析の上、PDCA サイクルの実践に繋げている。